

西根

連れ添って60年♡西根ダイヤモンド婚



60年間の夫婦生活をかみしめながらの記念写真

結婚生活60年を記念して、西根地区ダイヤモンド婚を祝う会は10月17日、八幡平ハイッで開かれました。昭和22年10月30日以前に結婚し、互いに助け合いながら、60年間苦楽をともにした夫婦30組が対象です。祝う会では、記念写真の撮影、記念品贈呈に続いて乾杯し、ますますの健康を祈願。寺田保育所の園児などがお遊戯を披露して、おじいちゃんとおばあちゃんを喜ばせました。



地域全体で子どもたちを守ろうと、見守り活動の体制を整えた寺田地域振興協議会

地域のかけ橋「松久保橋」の渡り初め

平館の市道松久保線松久保橋が完成し、10月7日に渡り初め式が行われました。式には、地域住民約60人が出席。田村正彦市長、瀬川健則議長などがテープカットをし、橋の完成を祝いました。松久保橋は、平成6年度から市道松久保線の561メートルに整備事業を開始。橋は長さ36・7メートル、幅9メートルほどの道路は、平館小学校への通学路でもあり、歩道も整備されています。



松久保橋の渡り初めをする地元の皆さん

寺田地域振興協が見守り活動スタート

子どもたちの安全を地域で守ろうと、寺田地域振興協議会は9月29日、寺田小学校の通学路で見守り活動を始めた。地域全体で子どもたちを守る体制を整えたのは、市内では同地区が初めてです。初日の出発式では、6年生の津志田桃子さんが「よろしくお願いします」と隊員にあいさつ。学区ごとに集団下校し、通学路の安全点検も行い

ました。見守り活動は、老人クラブ、民生委員、福祉協議会、PTA、交通・防犯団体が協力。学区や行政区ごとに活動するほか、一斉活動日も設けました。活動は、登下校時のパトロールや通学路の安全点検、週末の子どもたちの活動にも配慮。緑色のウインドブレーカーと腕章を着用し、児童とのあいさつ運動も展開します。

八幡平市

ワインと郷土料理でヤマブドウをPR

市の特産品ヤマブドウをPRしようと八幡平ワインと郷土の食を楽しむ夕べは10月14日、岩手山焼走り国際交流村で開かれました。この催しは、市の第三セクター・株式会社コスモプラザ西根(社長・田村正彦市長)が主催。県内一の生産量を誇るヤマブドウを活用した、八幡平ワインと郷土料理を堪能してもらおうと、初めて開催したものです。



市の特産品ヤマブドウを原料とした八幡平ワインやヤマブドウジュースの説明を受けながら、出席者はその味を堪能しました



ワインを片手に楽しいひとときを過ごす出席者

郷土料理には、市内の食品業者や産直組合などが地元食材を提供。ワインに合うよう洋風にアレンジされた料理などが、参加した市民120人の舌を楽しませました。田村市長は「ヤマブドウは生産拡大が進み、市の重要な特産品となっている。市民がヤマブドウの味を理解し、全国にPRすることが生産者のさらなる意欲につながります」とあいさつしました。会場では、ジャズの生演奏が流れ、参加した人たちは、ワインを片手に語り合いながら、地元食材を活用した料理に舌鼓を打ちました。

体力とパワー、高度なテクニックなどで勝敗を競う2006八幡平CUP綱引大会は10月8日、市総合運動公園体育館で開かれました。大会は、一般男子・女子、混合の部の3部門を実施。市内から平笠チームが男子と混合に出場したほか、全日本綱引選手権大会で優勝経験もある佐川急便東京など17チームが出場しました。選手たちは力を合わせながら綱を引き、相手を自陣に引き込みました。



パワーとテクニックで綱を引く選手たち

チームの心とパワーを一本の綱に集中



ターゲットバードゴルフに挑戦する参加者

多くの市民がスポーツに親しみ、健康的な生活に役立ててもらおうと、市スポーツ・レクリエーション大会は10月1日、市総合運動公園多目的運動広場と同野球場で開かれました。当日は、キックターゲットやグラウンドゴルフ、ピートライフルなどの全9種目に延べ800人が参加。天候にも恵まれ、参加者は、たくさんの種目を体験しながら心地よい汗を流しました。

気軽なスポーツを通し健康な体づくり

安代

職人技を盛り込んだ漆器の汁椀を展示



漆器のよさをPRしようと約100点が展示即売されました

若手漆作家10人などの作品を展示即売する、あなたの汁椀展は10月2日から安比塗漆器工房で行われました。作品展には、安代漆工技術研究センターのOBなどが、約百点の作品を展示。漆器は口当たりのよさと、みそ汁は冷めにくく、椀が熱くならないのが特長です。使い込むほどにツヤがでるほか、椀が欠けたりひびが入ったりしても修復することで一生使うことができる工口食器です。

ヤマブドウを味わい活用方法を考える

県内一の産地を誇るヤマブドウをPRしようと、八幡平ヤマブドウ産地紹介ツアーは10月4日、安代地区で行われました。ツアーには、盛岡市の環境と食を考える会「駒草」の会員16人が参加。一行は、北口茂夫さん(土沢)の畑を訪ね、収穫期を迎えたヤマブドウの実を味わいました。安代若者センターでは、地元生産者が加工したジュースやジャムなどを試食し、活用法について意見交換しました。



完熟ヤマブドウの収穫体験をする参加者

NZの研究者訪れリンドウ交流深める

市とリンドウを通じて交流するニュージーランド(NZ)の研究者2人は10月2日、安代地区でリンドウの生産現場を視察しました。訪れたのは、市とニュージーランドの関係者で設立した合同育種会社「リンドウインターナショナル」取締役のジョン・モファットさんと、同国所管研究所のジョスリン・イースンさん。モファットさんは「情報交換をしながら、両国の協力関係を一層深めた

い」と意気込んでいます。2人はこの日、生産者の畠山正徳さん(打田内)の作業場で、リンドウの仕分け作業などを見学。オランダへ輸出準備をしている畠山さんと、リンドウの色合いや茎の長さなどについて意見交換しました。一行は6日まで県内に滞在し、安代地区での栽培研究が進められている赤花リンドウの開発技術交流や、ポストハーベスト(収穫後管理)について情報交換を行いました。

畠山正徳さんの作業場で、リンドウの仕分け作業を見学し、意見交換するニュージーランドの研究者

松尾

ウォーキングで八幡平の大自然を満喫

さわやかな秋空と鮮やかな紅葉を楽しみながら、八幡平の自然を満喫してもらおうと、2006八幡平紅葉ウォーキングは10月21、22の両日、八幡平周辺で開催されました。この催しは、八幡平が一番美しい秋に毎年開催しているものです。ウォーキングをしながら、健康づくりと交流を目的に、八幡平を見る、歩く、



美しく色づいた紅葉を眺めながら七滝を目指す参加者たち



会場ではフリーマーケットも開催されました

楽しむ、味わうがテーマ。初日は、松川温泉を発着点にした松川溪谷5キロコース、2日目は、フォレストIを発着点にした七滝5キロコースに延べ300人が参加しました。各コースには、八幡平自然散策ガイドの会の会員が同行し、動植物の説明をしたり、絶景ポイントを紹介したりして参加者を楽しませました。期間中はフォレストI周辺で、県民の森秋まつりやファミリーネットも行われ、ゲームで楽しんだり、掘り出し物を探したりする人で、会場はにぎわいました。



号砲とともにスタートダッシュをきめる選手たち

松尾地区ロードレース大会で健脚競う

スポーツを楽しみながら健康増進を図ろうと、松尾地区ロードレース大会は体育の日の10月9日、松尾総合運動公園で行われました。大会は学年や年齢、性別ごとに2、4、6キロの部を設定。親子で走るファミリーの部も行われ、当日は112人がエントリーしました。選手たちは、さわやかな秋晴れの中、くつきりと見える岩手山を眺めながら、自己記録の更新を目指して健脚を競いました。

縁起のよい700個の紅白もちが舞う

秋の実りを感謝する寄木稲荷大明神の例祭は10月19日、寄木天照皇大神宮の境内で行われました。当日は、地域の人たちが寄木保育所の園児など約百人が出席し、五穀豊穣を祝いました。神事が終わると、恒例のもちまき大会が始まりました。もちは地元で取れたもち米で準備したものです。会場では、縁起のよい紅白もち700個が次々とまかれ、訪れた人たちを楽しませました。



縁起のよい紅白もち700個がまかれました